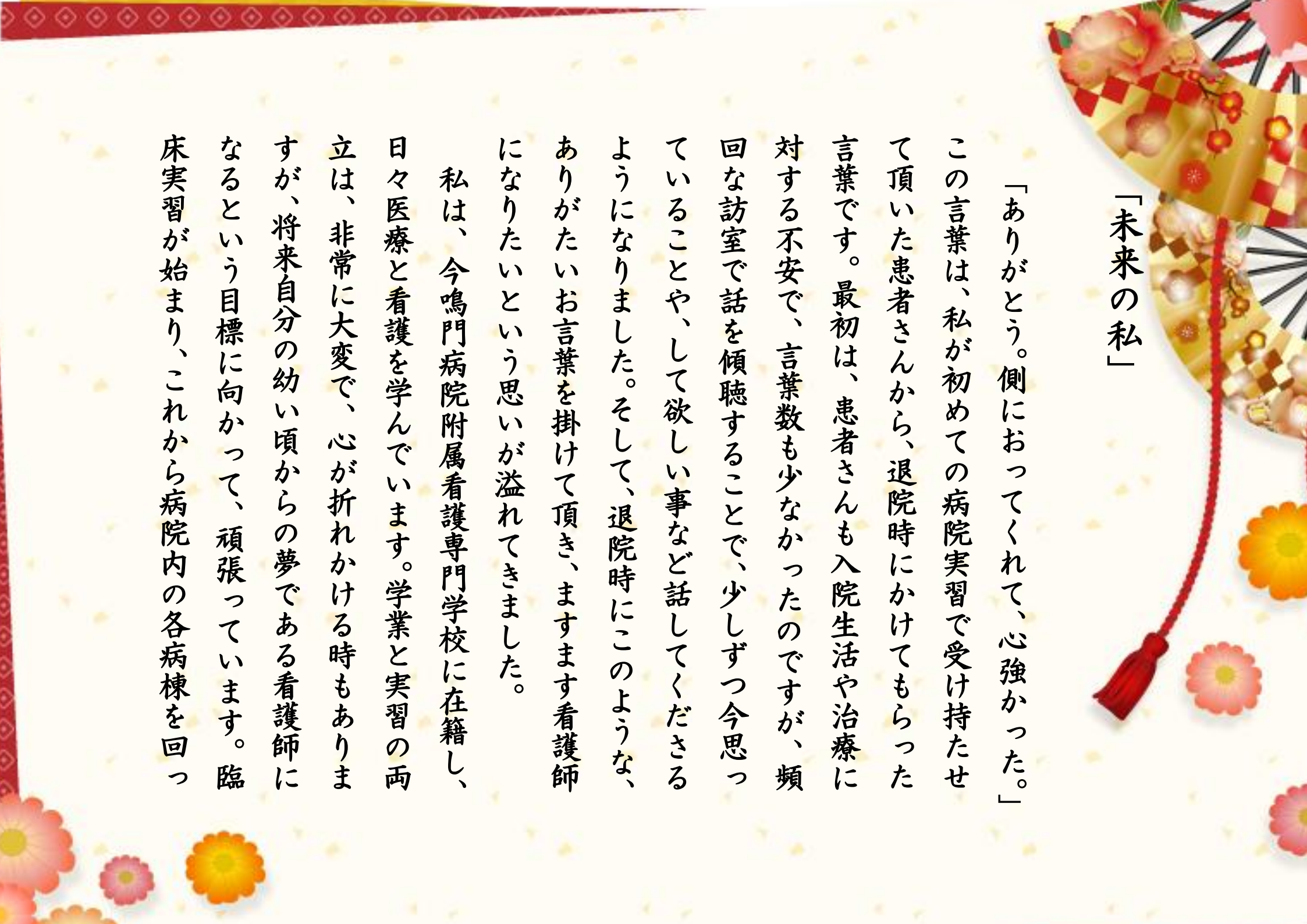




「未来の私」

「ありがとう。側におってくれて、心強かった。」

この言葉は、私が初めての病院実習で受け持たせて頂いた患者さんから、退院時にかけてもらった言葉です。最初は、患者さんも入院生活や治療に対する不安で、言葉数も少なかったのですが、頻回な訪室で話を傾聴することで、少しずつ今思っていることや、して欲しい事など話してくださるようになりました。そして、退院時にこのような、ありがたいお言葉を掛けて頂き、ますます看護師になりたいという思いが溢れてきました。

私は、今鳴門病院附属看護専門学校に在籍し、日々医療と看護を学んでいます。学業と実習の両立は、非常に大変で、心が折れかける時もありますが、将来自分の幼い頃からの夢である看護師になるという目標に向かって、頑張っています。臨床実習が始まり、これから病院内の各病棟を回っ



たり、精神科病院や保育園、老人施設など、さまざまな所で、実習させて頂いています。そこで出会う、さまざまな疾患を抱える患者様を受け持たせて頂くことになりましたが、一人一人の疾患を理解し、心の声にもしつかりと寄り添っていきたいと考えています。

日本は今、超高齢化社会を迎えようとしています。それに伴い、医療や介護に対する需要は増加し、病床数や施設の絶対的不足が懸念されています。また、看護師や介護士のマンパワー不足も否めません。しかし、過酷な労働作業や、長時間勤務、夜勤という、さまざまな課題が押し寄せてきて、中途退職をしてしまう人も後を断ちません。それを食い止めるためにも、みんなが働きやすい、労働環境を整え、看護する人も看護される人も、ウィンウィンな関係を築いていけるような社会作りが、必要になってくると思います。そのために、医療職の絶対的人数を養成し、その人のライ



フスタイルにあった働き方や、適正な部署への配置をし、定期的に面談を行い、悩みや不安、改善して欲しいことなどを上司が聞き取り、その都度みんなで話し合い、改善していけばいいのではないかと思います。そうすることで、少しでも離職する人が少なくなり、お互いがなんでも意見を、言い合えるいい職場になっていくと思います。

そもそも、看護師というのは、患者さんの一番身近な存在であり、普段とは違う様子や言動に、誰よりもいち早く気付き、異常の早期発見をしなければなりません。単なる技術や知識だけでなく、患者さんへの思いやりや愛情を込めたケアが欠かせません。また、患者さんが入院生活を少しでも安心して快適に過ごせるように、本音を言い出しやすい環境作りに心掛ける必要があると思います。

患者さんに寄り添った看護ができるように、日々勉学に努め、患者さんから、この人に受け持



ってもらいたいと言われるような、信頼される看護師を目指していききたいと思います。そして、将来は、今まで自分を育ててくれた両親や、今までお世話になったすべての方々、そして生まれ育ったこの鳴門市に恩返しをしていけるように、今度は私が地域の方々の健康と安全を守っていききたいと考えております。これから、成人としての自覚と責任を持って行動出来るように心掛けていきたいです。今後は、何事にもチャレンジ精神を忘れず、日々努力と研鑽に努めたいと考えております。